

原 発事故に遭った市町村の今を伝える 「被災地」福島 十二人の12年

福島第一原発事故の被災地域への支援活動を行う福島大学地域未来デザインセンター「相双地域支援サテライト」では、3月2日(土)~3月11日(月)にかけて、福島第一原発事故後12年を振り返りつつ、被災地域の今を伝えるパネル展がおしゃっちで行われました。パネル展では、原発事故に遭った12市町村から、農家や町職員などさまざまな分野で活躍している人が1人ずつ取り上げられ、それぞれの生きざまなどが綴られたパネルなどが展示されました。



灯 した火に祈りを込めて 3・11 集い~灯火~

大槌町NPO・ボランティア団体連絡協議会では、追悼式の後、おしゃっちに隣接する御社地公園で「3・11 集い~灯火~」が行われました。平成26年から続くこの催しは、灯ろうにあかりを灯し、東日本大震災で犠牲となられた人たちの鎮魂と復興への祈りを捧げるものです。会場では、3・11の文字に並べられた多くの灯ろうが、夜の公園をほのかに照らしていました。



第20回 「忘れない」の1日。

この「忘れない」思いを伝え あなたの「備え」につながるように

音 色に乗せた鎮魂の祈りと未来への希望 3・11 榎音メモリアルコンサート

一般社団法人榎音では、3月11日(月)に大槌町中央公民館安渡分館で「3・11 榎音メモリアルコンサート2024」が行われました。第1部では音楽劇「雪渡(宮沢賢治作)」が披露され、うもとゆき 兎本有紀さん、にしむらきよたか 西村清孝さん、さいき 彩木りさ子さんの3人による朗読と、あきお 亜季緒さんの歌やコーロ・まぎーぐうすのコーラスで、会場は大いに盛り上がりました。第2部では、大槌学園7年生の澤館優里佳さん、NHK交響楽団トロンボーン奏者の吉川武典さん、音楽ユニットTSUCHINOMIが、それぞれ演奏を披露しました。



語 り継ぐ「変わりゆく街並み」を あれから13年 写真・作品展

令和5年11月に発足した大槌語り継ぐ会では、3月8日(金)~3月13日(水)にかけて、災害と伝承について学ぶ写真・作品展がシーサイドタウンマストセンターコートで行われました。震災直後の状況や、その後の復興の様子が分かる写真の他に、版画作品などが展示されました。また、3月9日(土)には、2階のマストホールでサロンが催され、大槌語り継ぐ会代表の倉堀康さんによる基調報告や、お茶っこ会などが行われました。



東日本大震災津波から13年となる3月11日。町内では、犠牲者に対する追悼や慰霊の行事が各地域で行われました。多くの人がそれぞれの思いや願いを抱き過ごした「忘れない」の1日。

東日本大震災津波追悼式

3月11日(月)、おしゃっちでは、大槌町東日本大震災津波追悼式および一般献花が行われ、町内外から約500人が訪れました。

式典では、NHK交響楽団トロンボーン奏者の吉川武典さんと、音楽ユニットTSUCHINOMIの臺隆裕さん、北湯口佳澄さんの3人による献奏の後、地震発生時刻の午後2時46分に合わせて町内を鳴り響いたサイレンとともに、東日本大震災津波で犠牲となられた人たちに黙とうが捧げられました。

県立大槌高等学校生徒代表で追悼のことばを述べた菊池康介さんは「私の人生の記憶は東日本大震災から始まっています。あの日を語ることが出来る最後の世代ではありますが、当時はまだ幼く、鮮明に語れることが多くはありません。次の世代に伝承するため、皆さんの記憶、



追悼のことばを述べた菊池康介さん

感情、教訓を私たちに託してほしいです」と胸の思いを語りました。最後には、「私たち大槌人は挫けずに、泣くのは嫌だと、笑顔で前へと進み続けました。復興が落ち着き、日常が戻り始めた今だからこそ、再び一つになりましょう。立場、世代、出身地を問わず、これからの大槌を作る全ての人で、大槌マキになりましょう」と、未来への決意を誓いました。

追悼式以外にも、多くの団体が、各々で抱く「忘れない」の思いを込めて、さまざまな催しを行いました。